

今日も「丁」あがり♪

第3話
ネギ収穫機の土落しドラムを
粘土質土壌に対応させよ！の巻

皆さん、こんにちは！ 山積みになつた依頼に追われ、唯一の休息は週に1回通っているサウナ。疲れが滲んだ顔を少しでも健康的に見せようと、サウナ後に10分間、日焼けマシンにも入っているロボストス高垣でございます。

さて、昨年末にまた新たなご縁をいただきました。農研機構・農業技術革新工学研究センター（旧生研センター）から弊社の取り組みが評価され、農業機械化促進アドバイザーへの就任を要請されました。早速、革新工学センターのエンジニアの方々との交流がスタートしましたが、



写真1：ネギ収穫機SOFY（上）

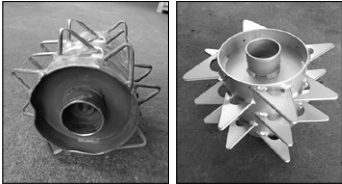


写真2：摩耗した土落としドラム（左）
写真3：仕上がったカスタム大径ドラム（右）

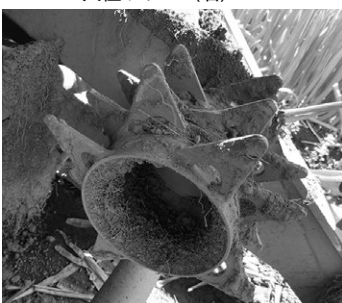


写真4：使用中のカスタム大径ドラム（下）

皆さんとてもピュアで朗らかで、農機が大好きで、熱い！！ これから一緒にプロジェクトなどに挑戦していきますので、その様子を本誌でも報告していきますね♪ というところで、今月はそのご縁から緊プロ農機に関する案件をご紹介しますよ♪。

泥団子をつくらない大径ドラムに

今回の依頼主は茨城県坂東市岩井のネギ生産農家さん。小橋工業社製のネギ収穫機SOFYの土落としドラムの特注製作です。「ドラムそのものが泥団子状態になつてネギの根っここの土がうまく落とせない」と



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。㈱ロボストス代表取締役社長。

いう困り事が持ち込まれました。岩井地区は夏ネギの一大産地です。

コメの転作地域で、なかには超粘土質な地区もあるんです。それでも梅雨の時期でも圃場がネチヨネチヨでも収穫し続けるんですね。そんな条件で使っていると、収穫機の土落としドラム（写真2）に泥が詰まって、ネギから土をふるい落とせず、大量の土を選果場まで運んでいってしまふという状況に……。土が水分を含んで重たくなるので収穫の際にネギが折れてしまうこともあるようです。よっしゃ！ そーゆーことならドラムの羽根高さを変えてみましょう！

さらに問題はもう一つあるようで、「ドラムの羽根先が摩耗すると二つに割れて針のようになってしまひネギを傷つけてしまふ」とのこと。よっしゃ！ そーゆーことなら羽根の形状を変えて、摩耗しても針にならないようにしちゃいましょう！ ということで、今日も鼻歌まじりに、レッツカスタマイズ、トゥギャザー!!!

【今回の工程はコチラ】

- ①羽根部分は丸鋼を曲げて作らず、レーザー加工で鋼板を羽根型に切り出しサンダーで角を丸くする
 - ②すべてのパーツを溶接
 - ③塗装
- チャチャチャットと、着想から2週間完成〜〜♪

特注品ならではの嬉しい悲鳴

完成品を手にした農家さんには「これは、使えるよ〜（笑）」と喜んでいただきました♪ ところが、ここで嬉しい誤算が発生しております（笑）。茨城岩井の特注モデルのつもりが、群馬や埼玉の産地からも製作依頼が舞い込み、噂を聞いたと千葉からも問い合わせをいただいたしまいました。

実は今回、特注単品の作り方で羽根を一枚一枚サンダーで丸めているので、売れば売れるほど忙しくなる状況になっております。読者さんのなかに「鋼板の角をきれいに丸めるスキル」を身につけたい方がいらつしやらないでしょうか？ ぜひお手伝いにいらしてください！（笑）丁寧なおもてなしで、歓迎いたします（涙） ということで、今日も一丁上がり〜〜♪

※今回の工程では、ボディ部分の詳細説明は省略しました。ご興味のある方は別途お問い合わせください。